

立命館 言語文化研究

11巻1号

目次

創設10周年記念国際シンポジウム

〈二十一世紀的世界と多言語・多文化主義—周辺からの遠近法〉特集

まえがき	渡辺公三	(1)
開会の挨拶	長田豊臣	(2)
20世紀をいかに越えるか	西川長夫	(3)
第一部 1920年代文化のクレオール性とは何であったか		(7)
雑種の思考の可能性について	西成彦	(9)
日本 モダン モンタージュ — パロディーのアイロニー	ミリアム・シルバーバーグ	(13)
ラングストン・ヒューズの1930年代の詩における複数的な政治的遠近法	湊圭史	(23)
定着とディアスポラ：戦間期の日系移民社会	米山裕	(31)
ブラジルから沖縄へ	今福龍太	(37)
コメント … 林淑美／細見和之／ミリアム・シルバーバーグ／湊圭史／米山裕／今福龍太／西成彦(司会)		(49)
第二部 アジアのさまざまな声 — 交差する多様な表現		(61)
ポスト・コロニアリズムとジェンダー		
— ビョン・ヨンジュとトリン・T・ミンハの映像テクストを読む —	池内靖子	(63)
トリン・T・ミンハ断章	池内靖子	(73)
記憶・「歴史」・まなざし — ヨン・スーン・ミンの「決定的な瞬間」	レベッカ・ジェニソン	(83)
日本におけるマルチカルチュラリズムとエスニック・アイデンティティ	鄭暎恵	(89)
聴く／訳く、あるいは、聴きとるとということについて	岡真理	(95)
コメント … 渡辺公三／姜尚中／李静和／トリンT.ミンハ／池内靖子(司会)		(101)
第三部 複数の歴史像に向けて — 国民国家の想像力を脱植民地化する		(109)
「アジア的なるもの」の産出とインド production of “the asiatic” and India	中村忠男	(111)
もうひとつ別の近代：植民地主義、ナショナリズム、インドという理念	ギャン・ブラカーシュ	(115)
モノグラフの転位	崎山政毅	(127)
コメント … 川村朋貴／モンテ・カセム／ギャン・ブラカーシュ／崎山政毅／中村忠男(司会)		(137)
サバルタン・スタディーズによせて	姜尚中	(145)
全体の総括討議	西成彦／池内靖子／中村忠男／ギャン・ブラカーシュ／トリンT.ミンハ／ミリアム・シルバーバーグ／西川長夫／渡辺公三(司会)	(149)
英文篇		
The 20th Century: How Do We Get Over It?	NISHIKAWA Nagao	(155)
The Pluralistic Political Perspective of Langston Hughes's Poetry in the 1930's	MINATO Keiji	(159)
Postcolonialism and Gender		
— A Reading of the Filmic Texts of Byun Young-Joo and Trinh T. Minh-ha —	IKEUCHI Yasuko	(165)
Remembering Selves, Remembering Nations	Rebecca JENNISON	(177)
A Different Modernity: Colonialism, Nationalism, and the Idea of India	Gyan PRAKASH	(185)
プレ・シンポジウム 「アジア映画のさまざまな声」		
女性の海外出稼ぎとフィリピン社会 — 「私の子供」上映にそえて	細田尚美	(195)
国際言語文化研究所歴代所長座談会 10年をふりかえって		
…… 辻善夫／奥村 勲三／西川 長夫／児玉 徳美／高橋 秀寿(司会)		(197)
NEWS LETTER		(215)
『立命館言語文化研究〈1巻1号～10巻5・6号〉』総目次		(237)
『立命館言語文化研究〈1巻1号～10巻5・6号〉』執筆者索引		(263)